

時空を超える 芥川龍之介



の文学～生誕130周年を迎えて～

まなびあむ いきいきセミナー<文学講座>

講師：国立舞鶴工業高等専門学校

人文科学部門教授 田村修一氏

日時：9月8日(木)13時30分～、場所：まなびあむ

田村修一氏プロフィール

広島県生まれ。同志社大学経済学部、立命館大学大学院文学研究科等を経て、2003年から国立舞鶴高専で教鞭をとる。著書『芥川龍之介 青春の軌跡ーイゴイズムをはなれた愛ー』(2003年発刊)。芥川龍之介や阿部知二に関する論文等多数。

★定員30名。高齢者以外の方の聴講も歓迎いたします。
新型コロナの感染状況によっては、定員を少なくすることもございます。

★受講には、事前申し込みが必要です。
9月2日(金)までにまなびあむへ電話(64-4060)でお申込みください。

講師の田村先生に、今回の講演を前にお話を伺ってきました。

Q 講演の構成を教えてください。

A 講演では次の3つの柱でお話しをします。

- ①芥川龍之介の文学を生むことになった彼の生い立ちの概要
- ②芥川文学の特質
- ③「羅生門」を読む

Q 先生が受講者に特にお伝えしたいことは何ですか？

A その1つは、「芥川文学の弁証法的性格」です。前近代と近代、東洋の文化と西洋の文化、といった2つの対立的なものが葛藤しながら、次のより高い次元へ統合されていく“止揚”の過程が特徴的ですので、それについてお話しします。その2つは、「虚構と内面告白」です。芥川文学は巧みなストーリーテリング(物語を語る)のなかに、読者の共感を呼ぶ内面告白が盛り込まれているのです。その3つは、「羅生門」誕生の背景についてです。

Q 田村先生が芥川龍之介に魅力を感じておられる点は何ですか？

A 芥川文学の魅力は、エンターテインメント的にも楽しめる筋の面白さを持ちながら、その中に内面告白がなされ、それに共感する自己を発見することです。芥川文学を研究することは、「芸術鑑賞とは何か?」、「自己とは何か?」を問い続ける営みでもあるのではないかと考えています。

Q 皆さんに知ってもらいたい芥川龍之介の魅力は何でしょうか？

A 芥川文学は、シニカル(皮肉っぽい態度)な芸術至上主義の文学ではなく、一人の人間が、その人生の中で葛藤・苦悩したことが誠実に反映されている文学であることを知っていただきたいと考えています。

芥川龍之介 年譜、主な作品

1892年(明治25) 東京に生まれる。

1910年(明治43) 第一高等学校一部乙類(文科)に入学

1913年(大正2) 東京帝国大学文科大学英吉利文学科に入学

1915年(大正4) 「羅生門」発表

1916年(大正5) 「鼻」発表

1918年(大正7) 塚本文と結婚。「地獄変」、「蜘蛛の糸」、「奉教人の死」発表。

1920年(大正9) 「南京の基督」、「杜子春」発表

1923年(大正12) 「侏儒の言葉」発表

1927年(昭和2) 「文芸的な、余りに文芸的な」、「歯車」、「或阿呆の一生」発表。

7月24日自死。享年36歳(数え年)。